



# 令和3年度 国立大学法人茨城大学学報



国立大学法人茨城大学

令和3年4月

【4月1日付 学長・役員等】

学長	太田 寛行	
理事・副学長（総括理事・教育統括）	久留主 泰朗	
理事・副学長（学術統括）	佐川 泰弘	
理事・事務局長（総務・財務）	山岸 仁	
理事（社会連携）	鳥羽田 英夫	
理事（国際連携）	菊池 あしな	
監事	中根 一明	
監事	浅見 裕子	
副学長（研究・産学官連携）	金野 満	
副学長（教育改革）	西川 陽子	新任
副学長（入試・高大接続）	折山 剛	
学長特別補佐（ダイバーシティ推進）	木村 美智子	
学長特別補佐（学生支援）	青柳 直子	
学長特別補佐（SDGs 推進）	蓮井 誠一郎	
学長特別補佐（ICT・情報セキュリティ）	羽渕 裕真	
学長特別補佐（社会連携）	中村 麻子	
学長特別補佐（グローバル教育）	池田 庸子	

【4月1日付 組織改編】

- <大学院>人文社会科学研究科を、人文科学専攻・社会科学専攻の2専攻に改組
- <大学院>教育学研究科の修士課程の募集を停止し、専門職学位課程教育実践高度化専攻（教職大学院）1専攻に改組
- <事務局>学務部直下に教育システム等改革推進室を新設

4月6日 令和3年度入学式を挙行

令和3年度茨城大学入学式が挙行され、2,217名の新入生・編入生が入学した。今年度は感染症対策として、例年（前年度は中止）の茨城県武道館での一斉開催をとりやめ、水戸キャンパス行動における入学生代表の参列による小規模な式典をライブ配信し、自宅等で視聴する形式とした。

入学式に引き続いて「コミットメント・セレモニー」も実施。5つの茨城大学型基盤学力を確実に身に付けるという目標へ向けた学生・教職員・地域のコミットメントを確認した。



### 【学長式辞】

茨城大学の学部・大学院及び特別専攻科に入学された 2217 名の学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。茨城大学の教職員・在学生一同、皆さんを心から歓迎致します。そして、これまで皆さんを支えてこられたご両親をはじめ、ご家族の皆様方に心からお祝い申し上げます。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために、一堂に会する式典は実施しないで、ライブ配信で行うこととしました。離れていても、皆さんと一緒に新たなスタートを切る仲間であることを感じていただき、私たちの歓迎の気持ちも伝わればと思っています。

これから大学で学ぶ皆さんは、学修者であるとともに、科学研究の第一歩を踏み出すこととなります。実は、この 4 月は、我が国の科学政策にとっても節目の時です。政府は、科学技術基本法に基づき、10 年先を見通した 5 年間の科学技術の振興に関する総合的な計画を立てています。この 4 月から

は第6期の基本計画が始まりました。そこでは、我が国が目指すべき社会を、「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ (well-being) を実現できる社会」と表現しています。

私は、ここに「国民の安全と安心の確保」や「一人ひとりの多様な幸せ」という言葉が使われたことにとっても大きな意義を感じています。かつて我が国の科学技術は、戦後の壊滅的な状況から復興するための拠りどころでした。それが、国民の安全安心と一人ひとりの幸せを実現するための科学技術に変わったのです。今、その歴史の最先端に立つ皆さんには、大学という場で、自分たちはもちろん、さまざまな境遇で生きる人たちの多様な幸せの実現を、常に目指してほしいと思います。

ところで、科学技術に関するこの変化の根底には、「サステナビリティ」、すなわち持続可能性という目標があるといえます。2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標・SDGs」のことは、皆さんも最近よく耳にしていると思います。茨城大学は、この「サステナビリティ」の追究に、先駆けて取り組んできました。今から15年前の2006年、地球変動適応科学研究機関という組織を設置したとき、その設立趣旨では、「サステナビリティ学の研究と教育」を進めることを掲げ、「茨城の地域サステナビリティ・ビジョンの提示」、そして、「現代の諸問題を俯瞰的に見つめ個別問題の解決に挑戦するサステナビリティ学の視点をもった国際的に活躍できる学生を育てる」ことを宣言しました。15年も前にです。この組織は、1年前に地球・地域環境共創機構という組織に発展しました。「サステナビリティ学」の系譜が根付き、全国をリードしてきたこの大学で、皆さんも、是非、その追究と実践に参加してください。

さて、私たちのこれからの安全と安心を考えると、COVID-19に対する向き合い方が大切です。最後に、アメリカの大学の先生から皆さんに宛てたメッセージを紹介します。メッセージを寄せてくれたルイジアナ州立大学の教授であるキングさんとは15年以上にわたっての交流があり、かつて本学の講義も担当してくれました。彼が寄せてくれたメッセージを私なりに和訳した一部を紹介します。

新型コロナウイルスは、国籍に関係なく、肌の色に関係なく、LGBTに関係なく、私たちが何よりもまず人間であることを示しました。私たちの間で死亡率が異なっていますが、それは、私たちが本質的に違っているからではなく、私たちの扱い方が違っているからです。私たちは不平等を生み出してしまいました。ウイルスはその失敗を利用しています。私たちの未来は、この教訓を学ぶことにかかっています。

新型コロナウイルスをめぐる経験から、問題に対処するには客観的で検証可能な真実を探さなければならぬことがわかります。フェイクニュースに対する本物のニュースのようなものはありません。しかし、真実と嘘はあります。私たちはその違いを知らなければなりません。私たちが作る問題には境界線はなく、何かを隠そうとして、壁をいくつ建てても通過してしまうし、時間とともに壁は崩れます。

いくつかの国は良くなり、いくつかは悪くなりました。しかし、政治哲学に関係なく、すべてが失敗しました、そして私たちは、それらの失敗で団結しています。私たちは失敗にもかかわらず、多くの希望を見いだすことができます。世界中で、科学技術が国境を越えて、前例のないスピードで新しいワクチンを作り、前代未聞の量の保護具を製造し、数百万人の命を救ってきました。やるべきことはまだたくさんありますが、これにより、将来の発生を封じ込め、直面している他の多くの根

本的な問題に対処するための青写真が得られるでしょう。

そしてキングさんは、「茨城大学の学生は、私たちの希望の源です」と、熱いメッセージを贈ってください。

科学技術の追究を通じて、持続可能な社会をめざすこと。客観的で検証可能な真実を探し求めること。たとえ失敗しても、その失敗で他者と団結し、問題に対処するための手がかりを見つけ、発信すること。

皆さんは、そうした役割を担う者として、家族、友人、地域の人たち、あるいは世界の人たちから、祝福とともに、期待の眼差しを向けられることになります。この茨城大学で、皆さんが大きく成長し、ともに歩みを進めていく仲間となることを心から願い、また、私たちも努力します。一緒にがんばりましょう。

本日は、入学、誠におめでとうございます。

令和3年4月6日  
茨城大学 学長 太田寛行



#### 4月17、18日 1・2年生向け課外活動紹介・交流イベントを学生団体が主催

4月17日・18日の2日間、本学学生プロジェクト「部活コンサル」の主催、本学社会連携課・広報室・学生支援センターの協力により、1・2年生向けの課外活動紹介・交流イベント「Ibadai Welcome Collection (ウェルコレ)」をオンラインで開催した。53団体が登場し、1000人近い学生が視聴した。





主催：部活コンサル  
協力：社会連携課 | 広報室 | 学生支援課

# IBADAI WELCOME COLLECTION

— オフライン新生動員イベント —

APRIL 17(SAT) & 18(SUN)  
10:00-17:00 @ Zoom

参加応募 受付中！  
応募フォーム  
締め切り：April 15  
応募のみに限らず、本職終了  
https://forms.office.com/r/8agHPCSPSN  
※本職は各自の所属大学経由で、社会連携課社会連携課  
担当に直接お問い合わせください。

タイムテーブル公開！  
カメラ、マイクオフ、参加者追加自由！  
事前に登録をキャンセルして  
当日はたくさん見てください！

アンケート実施！  
イベントに参加したらアンケートにご協力！  
あなたの声を今後の参考にします。

部活コンサル ツイッター  
@ibadai\_bc #ウェルコレ  
当日実況予定！

ウェルコレ概要掲載中！  
茨城大学 EVENT  
詳しくはこちらをチェック！

進行を務めた「部活コンサル」代表、人文4年の根岸さん

#### 4月20日 茨城県経営者協会と共同研究創発のための協定を締結

茨城大学と一般社団法人茨城県経営者協会は、4月20日、大学の有する研究シーズと地域企業のニーズを結びつけ、地域の活力を高めることを目的とした共同研究創発のための協定を締結した。

＜締結式＞4月20日 茨城大学水戸駅南サテライトで実施



茨城県経営者協会の寺門一義会長（左）と太田寛行学長

## 4月23日 『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第1回講演会を開催

本学は4月23日（金）に、茨城大学『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第1回講演会を開催した。講演会はオンラインで実施され、本学の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、200名を超える参加者があった。

### 茨城大学

## 『2050年カーボンニュートラル』 連続講演会



脱炭素社会を目指す「2050年カーボンニュートラル」は、エネルギー、産業、交通、業務、家庭すべての分野に関わり、その実現には産業と地域をあげた取り組みが必要です。茨城大学では、情報共有と協働の場として、地域の皆様に関われた取り組みを年間を通して行います。その開始に当たり、我が国をリードする講師をお招きした講演会を開催しますので、ご案内致します。

**会場**

オンライン開催  
(Zoomミーティング)

**対象**

どなたでも参加  
いただけます

**参加**

無料

**【第1回】 4月23日（金） 16:00 - 17:30**  
**「2050年カーボンニュートラル実現に向けた  
イノベーション」**  
 山地 憲治 先生 東京大学名誉教授  
地球環境産業技術研究機構副理事長・研究所長

**【第2回】 5月10日（月） 16:00 - 17:30**  
**「グリーンリカバリーと気候危機  
—世界と日本の動き—」**  
 小西 雅子 先生 世界自然保護基金(WWF)シヤン 専門ディレクター(環境・エネルギー)、  
昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授

**【第3回】 5月21日（金） 16:00 - 17:30**  
**「パリ協定後の気候変動対策  
—変化の中での企業と地域—」**  
 高村 ゆかり 先生 東京大学東洋文化研究センター 教授

**申込み・お問い合わせ**  
 申込みは、各開催日の1週間前までに、以下の申込みフォーム又は右記QRコードより申込みをお願いいたします。後日、講演会へのアクセス方法をご連絡いたします。  
[【連続講演会申込みフォーム】](#)

<主催> 茨城大学  
 <問い合わせ先> 研究・社会連携部研究推進課  
 TEL : 029-228-6501 E-mail : gj-soumu@ml.libaraki.ac.jp





講演を行う東京大学名誉教授で地球環境産業技術研究機構副理事長・研究所長の山地憲治氏

## 4月23日 キャンパスエイド活動感謝状授与

4月23日、大学院教育学研究科の学校臨床心理専攻（2021年度より募集停止。人文社会科学研究科人文科学専攻公認心理師コースとして再編）が、茨城県立フレックス高校における15年にわたるキャンパスエイド活動に関して、茨城県教育長より感謝状が授与された。



## 令和3年5月

### 5月10日 『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第2回講演会を開催

5月10日（月）に、茨城大学『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第2回講演会を開催した。講演会はオンラインで実施され、同大の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、200名を超える参加者があった。



講演を行う世界自然保護基金（WWF）ジャパン専門ディレクター（環境・エネルギー）で昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授の小西雅子氏

### 5月14日 共同研究で購入した調査船の進水式を実施

5月14日、日本原子力発電株式会社（げんでん）からの受託事業の一環で購入した小型船の進水式を、茨城県の日立港で行った。本学は令和2年度より受託事業として「防災・減災に係る研究及び啓発活動の実施事業」を展開している。そのうち本学理工学研究科（工学野）の藤田昌史准教授らによる研究で、水道の取水源である久慈川の河口の塩水遡上の実測と予測に取り組んでいるが、小型船はその調査用に購入したもので「茨大丸（いばだいまる）」と名付けられた。





#### 5月17日 学内での集団感染発生に伴う学長メッセージ

本学の課外活動において新型コロナウイルス感染症の集団感染が確認されたことから、入港禁止等の緊急措置を行った。それに伴い、太田学長が声明を出した。

本学内で新型コロナウイルス感染症の集団感染が確認されました。同一の課外活動に参加した学生のうちのPCR検査陽性者が、5月17日の時点で33人に上っており、ウイルスの多くは感染力の強い変異型であることも判明しました。

この事態を踏まえ、かつ保健所とも状況認識を共有し、先週末の感染対策のための措置をさらに強め、大学施設への原則入構禁止等の緊急事態措置をとることとしました。まずは感染の拡大を抑え込むために全力を尽くしますので、みなさんの協力をお願いします。

いま最も重要なのは、学生・教職員全員が、生活のあらゆる場面で改めてこのウイルスの感染力の強さをよく理解し、不顕性感染（症状が出なくても感染している状態）かも知れない、という前提で行動することです。また、感染症が広がる状況下では、検査陽性者の辛い心情を察した言動が必要です。陽性者に対する無用な詮索や差別的な言動、個人情報拡散などは絶対にあってはなりません。この感染症を克服するためには、私たちみんなが協力して立ち向かうことが必要です。

今回の措置に伴う行動の制限により、心身や経済面、生活面で不安を感じたら、ひとりで悩まず、学部の学務グループや学生支援センター、保健管理センターなどに相談してください。また、体調に不安を感じたら、直接医療機関へ行く前に、大学あるいは保健所に電話で相談をしてください。

保護者の皆様、地域の皆様には、ご心配をおかけしております。私たちは自治体と保健所と緊密に連携しながら、必要な対策を講じ、さらなる感染拡大防止に努めており、学生たちの心身のケアを第一に対応しております。本学の対応についてぜひご理解いただきますようお願いいたします。

#### 5月19日 ベトナムのハイフォン大学との大学間交流協定 オンライン調印式を開催

5月19日、ベトナム国ハイフォン大学と本学との大学間交流協定締結のための調印式を開催した。式はオンラインで実施され、ハイフォン大学からはグエン・ヴァン・キン書記長、グエン・ホアイ・ナム学長らの大学関係者らが、本学からは太田寛行学長をはじめとする役職員らがそれぞれリモートで出席した。



オンライン調印式での記念撮影

#### 5月21日 『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第3回講演会を開催

5月21日、茨城大学『2050年カーボンニュートラル』連続講演会第3回講演会を開催した。講演会はオンラインで実施され、本学の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、200名を超える参加者があった。



講演を行う東京大学未来ビジョン研究センター教授の高村ゆかり氏

## 令和3年6月

### 6月13日 学生に食料・日用品を無料提供—地域・学生・教職員がボランティアチームとして協力

6月13日（日）、水戸キャンパスの生協1階の食堂を使って、学生への食料・日用品の提供事業が行われた。当日は感染症対策を講じた中、合計463人の学生たちが参加して、それぞれお米や野菜、レトルト食品、生理用品を含む日用品が配られた。



### 6月28日 オンライン企画『発見！ユージン・スミスが撮った1960年代の“ひたち”』

2020年より茨城大学と日立製作所は協働のプロジェクトを進めている。その一環で、著名な写真家ユージン・スミスが1960年代の日立製作所や日立のまちを撮影したフォトエッセイについての研究を行っており、この日のイベントでは貴重なフォトエッセイのお披露目も兼ねた講演・解説イベントをオンラインで開催した。

オンライン企画  
発見！ユージン・スミスが撮った  
1960年代の“ひたち”  
2021年6月28日 (月) 10:00 ~ 12:00  
講演・解説  
オンライン (ZOOM) 開催  
どなたでも参加いただけます (無料)。(事前申し込み制・定員300人)  
オンライン開催のため、下記 (お申し込みURL) からご登録を  
お願いします。 <https://forms.office.com/r/8Ktnv3D0Hs>

茨城大学は、2020年度より、日立市や茨城県北地域の活性化、持続的発展に貢献するため、日立製作所との「連携プロジェクト」に取り組んでいます。  
本企画は、日立市地域の歴史・文化等の情報を語り継ぎ、世代の分断の対話をもち、過去・現在・未来の「地域デザイン」を築いていくという研究プロジェクトの一環として開催します。  
日立製作所が、写真家ユージン・スミスに撮影を依頼し1963年に制作した写真集は、これまで茨城県内での公開は確認されていませんでした。本プロジェクトの茨城大学で所有するものになりました。この写真集をさまざまな角度から研究して1960年代の“ひたち”が、社会的にどのような存在であったのか、地域の未来を築いていく方法を見出していきます。

講師 松本 美穂子 さん (写真家・美術家、茨城県北地域おこし協力隊マネージャー)  
「茨城県北のアートプロジェクトネットワーク」としてユージン・スミス  
大橋 隆徳 さん (日立市都市情報部 学芸員)  
「ユージン・スミスの発見の日」 「Japan a chapter of image」から

主催 茨城大学「茨城大学・日立製作所 連携プロジェクト「地域デザインチーム」  
問い合わせ先 茨城大学 地域・地域連携推進機構 (D11)  
TEL 029-228-8800  
メール [info@tsukuba.ac.jp](mailto:info@tsukuba.ac.jp) / [tsukuba.ac.jp](mailto:tsukuba.ac.jp) (直轄)



## 令和3年7月

### 7月1日 令和3年度茨城大学名誉教授称号授与式を実施

7月1日、令和3年度茨城大学名誉教授称号授与式を水戸キャンパス図書館ライブラリーホールで開催した。2021年4月に本学の名誉教授称号を授与されたのは計15名で、このうち6名が授与式に出席した。授与式では、太田学長が名誉教授称号記を手渡した。



氏名	元所属等
小泉 由美子	人文社会科学部
猪井 新一	教育学部
小野寺 淳	教育学部
川嶋 秀之	教育学部
小島 純一	大学院理工学研究科理学野
堀内 利郎	大学院理工学研究科理学野
伊藤 吾朗	大学院理工学研究科工学野
梅比良 正弘	大学院理工学研究科工学野
太田 弘道	大学院理工学研究科工学野
金 利昭	大学院理工学研究科工学野
星野 修	大学院理工学研究科工学野
村上 雄太郎	大学院理工学研究科工学野
中島 弘美	農学部
毛利 栄征	農学部
金 光男	全学教育機構



### 7月7日 異分野・異セクター交流をねらう「iiCafe」で山岸仁理事・事務局長が講演

iiCafeは、「いい（良い）カフェ」「（和気）あいあいカフェ」をコンセプトに、教員・研究者だけでなく大学の構成員が大学内の様々な活動を知る気軽な交流の場を目指す。7月7日に行われた第4回 iiCafe では、文部科学省や国立大学、独立行政法人などを歴任してきた同大の山岸仁理事・事務局長を講師として、「政府予算の1年の動き」と題したオンライン講演を開催した。



「iiCafe」で講演する山岸理事

### 7月8日 三村信男特命教授を講師に迎え『第4回カーボンニュートラルオープンセミナー』開催

7月8日、第4回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、同大の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、220名を超える参加者があった。今回は前学長でもある三村信男茨城大学地球・地域共創環境機構 特命教授が「カーボンニュートラル事始め—CO2 発生源の把握・対策に関する世界と日本の動き—」と題して講演を行った。



左から、GLEC 小寺昭彦講師、三村特命教授、吉田友紀子工学部助教による座談会の模様

### 7月14日 科研費応募件数の拡大等を目指し学内説明会を開催

本学の教職員を対象とした「令和3年度 科研費学内説明会」を7月14日に開催した。この説明会は科研費制度に関する意識向上、応募件数の拡大と採択率の向上を目的として毎年開催しているもの。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、昨年度に引き続きインターネット配信で行われ、約200名の教職員が参加した。



説明会の様子

### 7月31日 アンタレプレナーシップ教育プログラムキックオフシンポ

7月31日、「アンタレプレナーシップ教育プログラム」のキックオフ・シンポジウムを開催した。プログラムの受講対象となる本学の1年生を中心に、高校生なども含め、約200人が本学図書館への来場あるいは動画配信で参加した。本学では今年度の後学期より、全学部の学生を対象とする「アンタレプレナーシップ教育プログラム」をスタートする。



オンラインで行われた C Channel 株式会社  
代表取締役社長、森川氏の基調講演



パネルトークの様子

## 令和3年8月

### 8月5日 茨大発ベンチャーの(株)Dinowが「いばらき宇宙ビジネス支援事業」補助事業に採択

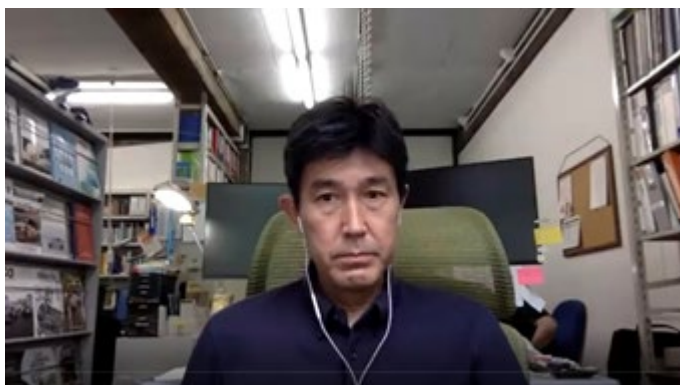
大学院理工学研究科博士課程の高橋健太さんが代表を務める茨城大学発ベンチャーの株式会社Dinowが、このたび、令和3年度いばらき宇宙ビジネス支援事業の補助事業に採択され、茨城県より393万円の補助を受け取るようになった。



茨大発ベンチャー称号授与式（2020年10月）右から2番目が高橋さん

### 8月24日 「第5回カーボンニュートラルオープンセミナー」を開催

8月24日、「自動車分野のカーボンニュートラルをどのように進めていくべきか」をテーマに第5回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、同大の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、200名を超える参加者があった。



草鹿仁 早稲田大学  
創造理工学部  
総合機械工学科教授





北村高明  
日本自動車研究所  
環境研究部主管

田中光太郎 茨城大学  
大学院理工学研究科  
(工学野) 教授

**8月31日 学長選考会議議長が令和3年度学長業績評価報告書を学長へ手交**

8月31日、学長選考会議の議長を務める学校法人茨城 理事長で種田・鈴木法律事務所弁護士の種田誠氏が、令和3年度学長業績評価報告書を太田寛行学長へ手交した。

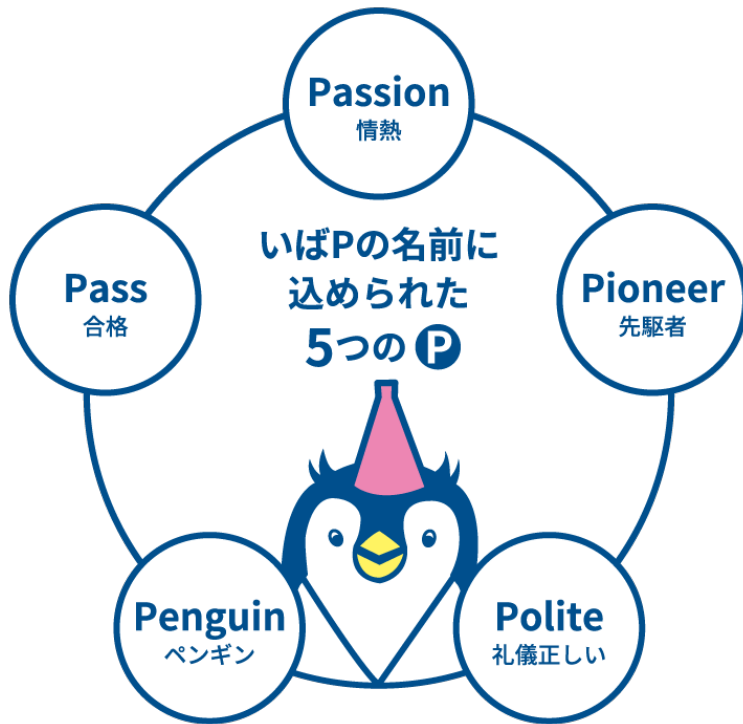


種田議長（左）から学長業績評価の報告書を受け取る太田学長



8月31日 茨城大学入試広報のキャラクター「いばP」公募で名前決定

ペンギンをあしらった茨城大学の入試広報のマスコットキャラクターの名前が「いばP（ピー）」に決まった。



茨城大学入試広報キャラクター  
5つの特徴

- 1 1  
いつも...  
茨大コミットメントの  
メガフォンを持っている  
(理由:受験生を応援したい気持ちが溢れているから)
- 2 2  
つつい...  
茨城弁 (方言:特にPPE) が  
出てしまう。
- 3 3  
役職は...  
茨城大学入試広報隊長
- 4 4  
口くせは...  
「がんばっぺ!」
- 5 5  
好物は...  
六角堂付近 (北茨城) でとれる  
ヒラメ (茨城県のさかな)

令和3年9月

**9月15日 一般社団法人水戸観光コンベンション協会と相互の連携協力協定を締結**

茨城大学と一般社団法人水戸観光コンベンション協会は、相互連携・協力に関する協定を締結した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、締結式は本学水戸キャンパスおよび水戸駅南サテライトの2つの会場をオンラインで接続して実施した。



協定書を手にする太田寛行学長（左）と水戸観光コンベンション協会 加藤高藏会長

**9月17日 令和3年度茨城大学学位記授与式（9月期）を開催**

9月17日、令和3年度茨城大学学位記授与式（9月期）をオンラインで開催しました。今期は卒業・修了生計35名に対し学位を授与した。



#### 【学長式辞】

みなさん、卒業、修了、おめでとうございます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症、COVID-19の災禍が治まらず、みなさんの研究生活にも大きな影響があったと思います。そのような苦境の中で、学位論文を完成させ、卒業・修了を迎えられたことに、まず敬意を表します。そして、みなさんの学業を支えてくださった、ご家族、友人、そして指導教員の皆さまにも、お祝いを申し上げます。

この学位授与式に出席しているみなさんにとって、2021年は人生の節目の年となるだけでなく、東京オリンピックとパラリンピックが開催された年として記憶に残るでしょう。特に、パラリンピックは私たちに「障害」ということの意味を、改めて考える機会になったのではないのでしょうか。ここで、私が考えたことを皆さんに紹介して、みなさんの新たな出発を応援する言葉としたいと思います。キーワードは、「多様性」と「格差」の関係です。

私たち人間は、食べ物への嗜好や、モノの好み、そして考え方にも違いがあり、身体的な機能においても一様ではありません。その違いを「多様性」として捉えることに異論はないはずです。しかし、その違いが、自分の努力や意志ではどうすることもできない他律的に決められた社会の枠組みで「差別」や「格差」につながることは大きな問題です。

私は、遅まきながら、「エイブリズム」という言葉を知りました。これは、障害を持たない人に比べて、障害を持つ人は劣っているとする考え方で、非障害者優先主義を意味しています。私たちの多くはエイブリズムに陥りやすく、非障害者の基準を前提にして社会環境を作ってきました。障害を人

間の多様性として捉え、それを包摂する社会づくりが軽視されてきたということです。

ここで、ハーベン・ギルマさんの回想録の一節を紹介します。その本の副題は、「ハーバード大学法科大学院初の盲ろう女子学生の物語」です。その本の中で、ハーベンさんはルイジアナ視覚障害者センターで受けた授業での挿話を語っています。その挿話は次の通りです。

「盲目の物乞いが紳士に近寄って行く。物乞いはタバコ用のライターを紳士の手押し付け、1ドル札をせがむ。紳士は、自分はタバコを吸わないと言うが、物乞いは1ドル札を手に入れるまでまとわりつく。物乞いは、紳士がもっと金を持っているとふんで、自分が目の光を失ったのは、ある工場での爆発が原因だったと言い、ドラマチックに話に尾ひれをつけて語り出す。するとその紳士は、そのときに自分も同じ工場で働いていたと言い、爆発が起こったときに物乞いと一緒にいたと告白する。」。

この先の展開はどうなったと思いますか？ 二人の最後のやりとりは、物乞いの「お前は無事だったかもしれないが、俺は目が見えなくなったんだ！ わかるか？」に対して、紳士は「そうか、そんなことで騒ぐなよ。俺だって目が見えないんだ。」という答えです。

みなさんは、この話にどのような感想を持ちましたか？ 私は、物乞いは格差の問題を訴えているようですが、自身もエイブリズムに染まっていると思います。一方、紳士は、エイブリズムの社会であっても、盲目は騒ぐようなことではなく、人間の多様性であり、どんな人にも活躍できる場があることを信じて生きてきたのだと思います。

格差に関係して気になる言葉使いがあります。人々が互いに競争する社会の様相を語る言葉として、「勝ち組」、「負け組」という言葉が流行りましたし、今でも使う人がいます。私は、人間の多様性からすれば、誰かが何らかの結果の状況だけで安易に人生を決めつけて仕分けする行為を許容したくありません。みなさんの多くは、これから社会に出て、良いことも悪きことも経験するでしょう。もし、苦境に遭ったら、どんな自分であっても、たとえ目の光を失っても、活躍できるチャンスは必ずあることを忘れないでください。私たち茨城大学の教職員全員は、みなさんが歩もうとしているそれぞれの未来を応援しています。

本日は、卒業、修了、おめでとうございます。

令和3年9月17日  
茨城大学 学長 太田寛行



9月28日 令和3年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程入学式（後学期）を挙行



9月30日 三村信男前学長が海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞

本学の前学長である三村信男名誉教授がこのほど、第14回海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。気候変動問題のパイオニアとしての貢献が評価されたもので、「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野の4人の受賞者の1人に選ばれた。



三村信男名誉教授

令和3年10月

10月8日 「第6回カーボンニュートラルオープンセミナー」を開催

10月8日（金）、第6回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、本学の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、140名を超える参加者があった。



「無機化学者による二酸化炭素利用への取り組み」と題し講演を行う藤澤清史 大学院理工学研究科（理学野）教授



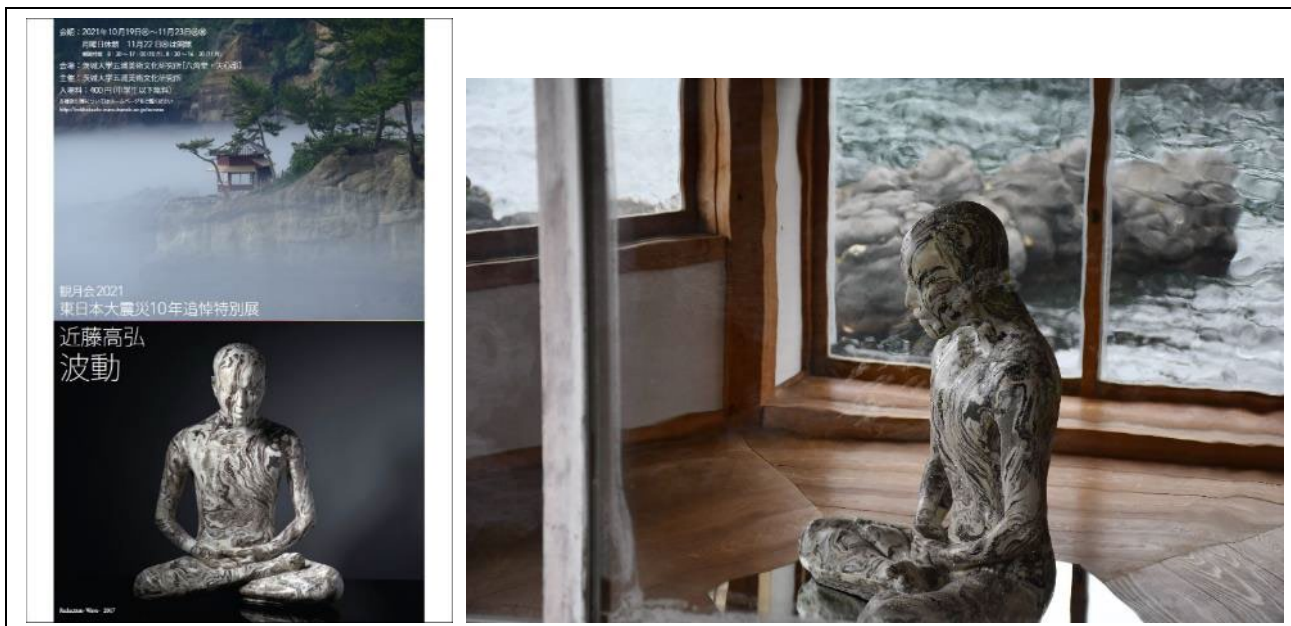
「太陽光で炭酸固定をする微生物たち」と題し講演を行う大友征宇 大学院理工学研究科（理学野）教授

10月11日 「日立地域デザインプロジェクト推進室」が経産省「地域オープンイノベーション拠点」に選抜

本学の研究・産学官連携機構（iRIC）内に設置している「日立地域デザインプロジェクト推進室」が、10月11日、経済産業省の「第3回 地域オープンイノベーション拠点選抜制度」にて地域貢献型の拠点に選抜された。

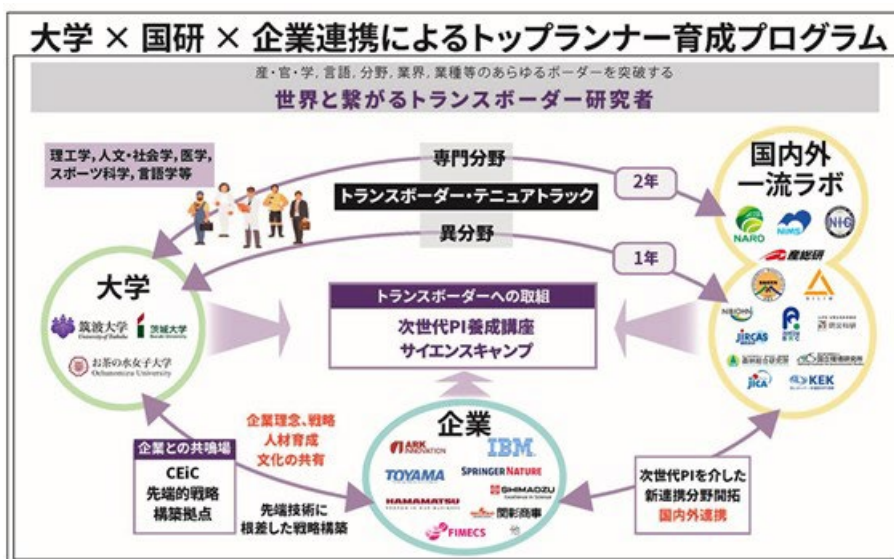
10月19日 茨城大学五浦美術文化研究所「観月会 2021」東日本大震災10年追悼特別展 世界的な現代美術作家・陶芸家 近藤高弘氏の作品展示

茨城大学五浦美術文化研究所（北茨城市）は、10月19日（火）～11月23日（火・祝）、六角堂・天心邸を会場に「観月会 2021 東日本大震災10年追悼特別展：近藤高弘《波動》」を開催した。



10月29日 「大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム」、筑波大等との協力でスタート 文部科学省の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」に採択

茨城大学が参加し、筑波大学を代表機関とする「大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム」が、文部科学省の令和3年度科学技術人材育成費補助事業「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」として採択された。



10月29日 農学部研究室訪問交流会をオンライン開催

本学は10月29日、茨城県経営者協会との連携による「令和3年度茨城大学農学部研究室訪問交流会」をオンラインで開催した。研究室訪問交流会は、茨城県内の企業との産学連携の契機とすることを目的に、理学部・工学部・農学部を対象として行われている。農学部では2年に1回実施しており、今年は新型コロナウイルス感染症対策として初めてオンラインで開催された。





農学部の概要を紹介する戸嶋学部長

幸田商店 賞



企業賞の発表



### 10月 高萩市の観光ポスターに本学宇宙センター管理の電波望遠鏡が登場

茨城大学理学部附属宇宙科学教育研究センターが管理する口径 32m の宇宙電波望遠鏡の写真が、茨城県高萩市の新しい観光ポスターに使用された。満天の星空をバックにした宇宙電波望遠鏡は、紅葉が見事な花貫溪谷の汐見滝吊り橋、砂浜と岩が絶景を織りなす高戸小浜海岸と並んで、象徴的なスポットとして選出された。





令和3年11月

### 11月2日 地域の未来にSDGsをどう活かす？ ウスビ・サコ氏招いてシンポジウム開催

本学と常磐大学は、大学連携シンポジウム「地域の未来にSDGsをどう活かせるか—大学の役割と実践の知恵—」を、水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールで開催、YouTube LIVEにてオンライン同時配信もおこなった。



### 11月3日 令和3年秋の叙勲を名誉教授2名が受章

政府より令和3年秋の叙勲受章者が発令された。茨城大学関係の受章者は以下のとおり。

#### ■ 瑞宝中綬章

- ・長澤 邦紘（ながさわ くにひろ）名誉教授（元 教育学部教授）  
（専門分野：英語教育学）
- ・佐藤 恵一（さとう けいいち）名誉教授（元 人文学部教授）  
（専門分野：アメリカ経済史）

### 11月6日 茨城大学図書館オンライン土曜アカデミー開催

11月6日、茨城大学図書館は理工学研究科（理学野）の岡田誠教授を講師に迎え「オンライン土曜アカデミー 新著を語る『チバニアン誕生』方位磁針のN極が南を指す時代へ」を開催した。



11月10日 「第7回カーボンニュートラルオープンセミナー」を開催

第7回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、同大の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、130名を超える参加者があった。本学農学部の西澤智康准教授が「農学的な切り口で温室効果ガスの発生と消費を考へてみる - 微生物が、どのように気候変動に影響を与えているのか?」と題して講演を行った。

11月11日 徳島大・野地澄晴学長を講師に地域・社会連携考へるセミナー

地域連携、産学連携の先進的な取組をリードしている徳島大学の野地澄晴学長を講師に招き、「地域・社会連携の展開を考へるセミナー」を開催した。本学水戸キャンパス内の会場及びオンライン中継で、本学執行部や教育研究評議会の評議員などが参加した。



講演する野地氏



謝意を示す太田学長

### 11月11日 農業ブルドーザー用いた大規模水稲栽培研究 収穫米を寄贈

本学農学部は、建設機械メーカー大手の株式会社小松製作所（コマツ）との共同により、農業ブルドーザーを用いた大規模圃場における乾田直播水稲栽培の実証実験を行っている。今年は約25トンの新米が収穫されたことから、これらを地域の食の支援を行っている団体へ寄贈した。



ブルドーザーの前で記念撮影する本学、コマツ、支援団体の方々



圃場とブルドーザーの様子

### 11月13日 第72回茨城大学学園祭「茨苑祭(しえんさい)」、オンラインホームカミングデー同時開催

昨年度、新型コロナウイルスの影響によって中止となった本学の学園祭「茨苑祭」。今年度はオンラインで開催された。茨苑祭は例年2日間開催だが、今年度は11月13日（土）9：00～18：30の1日開催。あわせてホームカミングデーについても、職員が出演するキャンパスツアー動画を公開するなど、オンライン版として開催した。





茨苑祭公式ホームページ（左）とオンラインホームカミングデー キャンパスツアーの様子

### 11月17日 駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使が学長を表敬訪問

Sinisa Berjan（シニシヤ・ベリヤン）駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使が水戸キャンパスに来訪し、太田寛行学長、菊池あしな理事（国際連携）、池田庸子学長特別補佐（グローバル教育）と懇談をおこなった。



左から菊池あしな理事、Sinisa Berjan（シニシヤ・ベリヤン）駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使、太田寛行学長、池田庸子学長特別補佐

### 11月17日 茨城県・茨城産業会議と連携でカーボンニュートラル講演会

11月17日、茨城県・茨城産業会議との主催により、「グリーン社会の実現と茨城の未来」と題した連携講演会を開催した。会場の水戸京成ホテルには本学の学生のほか、自治体や企業等の関係者75人が参加、オンラインのライブ中継を47人が視聴した。





講演する本学の金野満副学長（研究・産学官連携）



パネルディスカッションの様子

### 11月18日 令和3年度前学期成績優秀学生表彰式

11月18日、令和3年度前学期成績優秀学生表彰式を開催した（表彰式は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じたうえ、対面にて実施。また、各キャンパスをオンラインでつないで開催）。この制度は、学生の勉学意欲の向上に資することを目的として、学業成績が特に優れ、かつ、人物が優秀であると認められる学生を表彰するとともに、授業料を免除するもの。今回は、学部4年次生37名及び大学院修士課程・博士前期課程1年次生31名、計68名に表彰状を授与した。



表彰を受けた学生（左から水戸キャンパス、日立キャンパス、阿見キャンパス）

### 11月23日 茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021

11月23日、茨城県内に在住・在学する学生によるビジネスプラン、県外の学生による茨城県に関わるプランを対象とした「茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021」の公開最終審査を水戸キャンパス図書館本館3階ライブラリーホールで開催し、オンラインでのライブ中継も行った。



## 令和3年12月

### 12月13日 「第8回カーボンニュートラルオープンセミナー」を開催

12月13日、第8回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、本学の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、約100名の参加者があった。今回は連続企画の第8回として、伊藤雅一 名古屋産業大学教授が「地域のCO2データを利用した環境教育の実践と市民科学の創成」、桑原祐史 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)教授が「茨城県を対象とした生活環境圏におけるCO2濃度の計測と指標化」と題してそれぞれ講演を行った。



伊藤教授による講演の様様

### 12月15日 令和3年度後学期 学長と学生の懇談会を実施

学長をはじめ大学執行部教職員と学生が直接対話し、学生たちが抱える疑問や不安を汲み上げ、大学運営に反映することを目的とした学長学生懇談会を実施した。1、2年次生を中心に、各学部から計75名の学生が参加した。



学生からの質問に対して回答をする太田学長



セッション別懇談会で学生の意見に耳を傾ける久留主副学長



## 12月16日 NPO法人田淵チバニアンズのガイドのみなさんが研修ツアーで本学を訪問

地質年代名「チバニアン」の由来となった千葉県市原市の地層で観光客向けのガイドや環境整備などの活動を行っているNPO法人 田淵チバニアンズの会員及びガイドなど約40人が、研修ツアーの一環として水戸キャンパスを訪れた。「チバニアン」は日本の地名に由来する唯一の地質年代名。理工学研究科の岡田誠教授がリーダーを務めるチームによる申請の結果、2020年1月に国際学会において正式な名称として認定された。



## 12月22日 iOPラボ×ドットジェイピー水戸支部共同イベント開催

茨城大学iOPラボと、議員インターンシップのコーディネーターや若年選挙投票率向上の活動などを行っている学生団体であるドットジェイピー水戸支部が、共同でイベントを開催。Change.org Japanの武村若葉氏によるオンライン講演とワークショップにより、社会を変えるムーブメントについて考えた。



## 12月23日 「コロナ禍における学生生活調査」を学生が実施

人文社会科学部の労働経済論ゼミナール（指導教員：清山玲教授）が、本学の学生685人を対象とした「コロナ禍における学生生活調査」を実施し、報告書を発行した。報告書は、本学の関係者や調査の協力者、報道機関などに提供されたほか、茨城大学ホームページでも閲覧できる。



今回発行した調査書

調査内容をまとめた星龍汰さん(左)、森大起さん(右)



## 令和4年1月

### 1月26日 令和3年度茨城大学学長学術表彰、教員6名が受賞

茨城大学は、令和3年度茨城大学学長学術表彰の表彰式・受賞記念講演会を、1月26日、同大水戸キャンパスで開催した。今年度は優秀賞3名、奨励賞3名の受賞者があった。

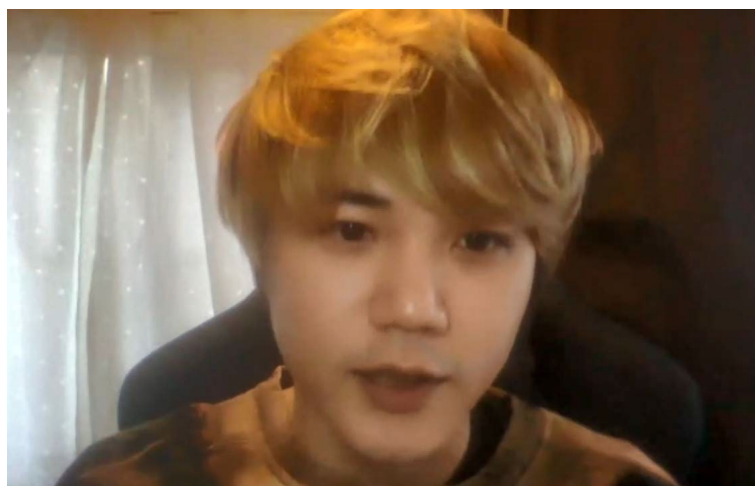
この学術表彰は、本学において先進的・独創的な研究を実施している研究者の特筆すべき成果をたえるもので、学会賞や文部科学大臣表彰等を受賞するなど優秀な研究成果があった者に贈られる優秀賞と、若手研究者を対象とした奨励賞がある。表彰式終了後、受賞者はそれぞれ自身の研究テーマについて講演を行った。



## 令和4年2月

### 2月4日 「第9回カーボンニュートラルオープンセミナー」を開催

2月4日（金）、第9回カーボンニュートラルオープンセミナーを開催した。本セミナーはオンラインで実施され、本学の学生や教職員の他、地域住民、自治体や民間企業の関係者等、120名を超える参加者があった。今回は連続企画の第9回として、財政論を専門とする掛貝祐太 茨城大学人文社会科学部講師が「経済・財政からみた環境問題の課題と展望」と題して講演を行った。



掛貝講師による講演の様様

### 2月17日 水戸市長招き学生らが移住・定住促進に関する調査報告会を実施

茨城大学は2月17日、水戸市長や市職員を招いた「水戸市行政懇談会」を開き、水戸市からの依頼で同市の移住・定住促進政策について検討した行政学のゼミの学生たちが、市長にプレゼンテーションを行った。「PR政策」「コンパクトシティ」について、本学学生が意見やアイデアを水戸市へ提言した。参加した学生の一人は、「市長のお話を聞ける貴重な機会をいただいたので、今後自分たちの活動に存分に生かしたい」と語った。



## 令和4年3月

### 3月18日 人文社会科学部ラーニング・コモンズをリニューアル、お披露目会を開催

3月18日（金）、人文社会科学部 B 棟にあるラーニング・コモンズがリニューアルされたことを祝い、お披露目会を開催した。今回の整備は同学部の「学生の学びの場の整備計画」の一つとして、学生たちにとってより機能的で使いやすく、快適に過ごせる空間づくりを目的として実施。グループワークに適した「アクティブエリア」、プロジェクターやスクリーンが完備された「演習エリア」のほか、専門スタッフが常駐する「デジタルサポート窓口」を設けた。



グループワークに適した「アクティブエリア」



プロジェクターやスクリーンが完備された「演習エリア」

### 3月23日 令和3年度卒業式・学位伝達式を挙行

3月23日（水）、令和3年度茨城大学卒業式・学位伝達式が挙行され、1,973名に学位記や修了証を授与した。今年度は感染症対策として、密集を避ける観点から二部制とし、第一部（学部卒業生）を茨城県武道館で、第二部（大学院・特別専攻科修了生）を水戸キャンパス講堂でそれぞれ開催した。また、第一部・第二部ともに式典のライブ動画を配信し、当日参列できなかった卒業生・修了生、保護者はオンラインで視聴した。





### 【学長告辞】

本日、学部・専攻科・大学院の卒業式・修了式を迎えた 1973 名のみなさん、卒業、修了おめでとうございます。学業を成し遂げ、この日を迎えられることを、心からお祝いいたします。そして、みなさんの学業と研究活動を支えてこられたご家族や友人の方々にも心からお祝い申し上げます。

まず、ウクライナの情勢について、一言述べたいと思います。ロシアの軍事侵攻では、子どもたちを含む多くの人たちの尊い命が奪われていることに深い悲しみを覚えています。科学と言論に基づく平和な社会を希求し、学問を追究してきた大学の中の一員として、私は、あらゆる戦争を非難するとともに、改めてこのような状況が生まれる現実を直視し、平和な社会づくりに貢献する研究と教育を行っていかねばならないと、強く思っています。

私たちは安心しきっていたのかもしれませんが。戦争は過去の、歴史上の出来事であり、国連が採択した SDGs に世界の人々が賛同して、平和な社会づくりに向かって前進している、と信じていました。



しかし、ウクライナのことだけでなく、この数年間に起こっている地球の出来事をよく考えれば、例えば、新型コロナウイルス感染症のパンデミックや、激甚化する自然災害にあらわれている気候危機などを考えれば、決して安心できる状況ではありません。それでも、人類は何とか適応していけるだろうという、希望に近い思いや想像があったと思います。

私たちはこれから変化していく社会にどのように適応していくのでしょうか？このまま希望的観測を続けていけるのでしょうか？

ある本の言葉を借りれば、

「いま存在しているような社会は別の形に変わるのだろうか。それとも、たとえば封建制とか奴隷制のような過去の制度が復活し、新しいテクノロジーによって維持されるのだろうか。それは誰にもわからない。地上における人間生活の未来は、死後の世界と同じくらい未知だ。」

とあります。この一節を読み、私は、未来が分からないこと、読めないことの不安、究極的には、未来でいつか「死ぬ」ということへの不安から逃れるために、人間は希望をもって未来を思い描き想像することに執着するのではないかと思いました。

今紹介したある本とは、イギリスの政治哲学者、ジョン・グレイの著作、**Feline Philosophy, Cats and the Meaning of Life**、翻訳書のタイトルは、「猫に学ぶ、いかに良く生きるか」です。猫をめぐる、ギリシャの哲学から谷崎潤一郎の小説までも語りきる内容は壮大です。みなさんは、猫と人間の哲学の間にどんな関係があるのか？と思うかもしれません。そこで、私が考え込んだ一節を紹介します。

「人間の人生は価値によってランク付けされるのではなく、他の動物の良き生活は、人間生活により近いことを意味するわけではない。個々の動物、個々の生物には、それぞれ独自の良き生活があるのだ。」

この一節から、私は、人間というものは、社会の未来だけでなく、自分自身の未来や人生の物語を思い描き、その物語の価値を他者と比べてしまうこと、またある時は、高名になった人たちが語る理論や手引きをまねて生きれば、人生の価値が上がると思込んでしまうこと、そういう特性があるように思いました。ところが、そのような行為は、自らを翻弄するものかもしれません。

このような人間に対して、さて、猫はどうでしょう。想像をめぐらして思い悩むことなどはないでしょう。わが家の猫を見ていると、食事とトイレ以外は箱の中でずっと寝ていて、淡々と、持ち合わせた個性に従うままに生きてるように思えるのです。

もう一つ、私は、この本からスピノザの哲学に出会いました。著者は、猫の生き方をスピノザの“コナトゥス”という概念と結びつけています。“コナトゥス”とは、哲学者の國分功一郎さんの言葉では、「自分の存在を維持しようとする力」とあります。私の解釈では、この「自分の存在を維持する」とは、「自分という個性を維持する」ことだと思えます。

振り返って下さい。みなさんが小学校に入って、中学、高校と進学して、大学に入学し、卒業するまでの道のりを歩んだ力は、みなさん固有の知的欲求や、良き生活を求める内なる欲求に基づくものだったと思います。

大学とは、人間の知的欲求を支え、学生と教職員という世代間の交流や、そのインクルーシブな環境に支えられたダイバーシティによって、知的欲求が絶え間なく広がっていく場だと言えます。

みなさん、もう一度振り返ってください。大学や大学院の卒業・修了に当たって、みなさんの「もっと沢山のことを、もっと幅広く、そしてもっと深く知りたい」という欲求はある程度満たされたと同時に

に、まだ物足りないとも感じているはず。豊かに膨らみ続ける知的欲求、それは、社会に出てからも続く、終わることのない自然な欲求です。私は、それが、人間の“コナトウス”だと確信しています。最後に、“コナトウス”はみんな同じではなく、人それぞれの個性があるはず。みなさんが持ち合わせた様々な個性で生きること、そのひとりひとりの生き方には、優劣はなく、貴いや卑しいという貴賤もなく、完全・不完全という区別や差別もありません。みなさんが今生きている自分の人生を、どうぞこれからも大事にしてください。茨城大学は、みなさんの母校として、みなさんの個性を發揮した歩みを応援しています。

本日は誠におめでとうございます。

令和4年3月23日  
茨城大学 学長 太田寛行



告辞を述べる太田学長